



きこえとことばの教室だより

NO.3

令和4年 11 月 7 日

昭島市立富士見丘小学校 きこえとことばの教室

☎042-544-1921



落ち葉が風に舞う季節となりました。澄み切った青空に通学路の木々が美しく映えています。今年は例年と異なり、行事の少ない秋となりました。寂しさを感じますが、早いもので今年も残りあと1か月あまりとなりました。通級では引き続き子供たちを励ましなが、一緒に活動していきたいと思ひます。

自己表現が乏しい子



なかなか自分の気持ちや意思を表すことができにくい子には、二つのタイプがあります。

- ①「緘黙」症状があり、話をしたくても話しができない子
- ②自信がもてないため話せない、動けない子

①「緘黙症状の理解」

緘黙児の研究者によれば、周囲から見ると「口をきかない」「声を出さない」と見えますが、口をきかなくても「口がきけない」、声を出したくても「声が出せない」子どもたちであるという認識が大事だということです。話そうとすると緊張して言葉が喉に詰まり、のどに鍵がかかったようになってしまい、言葉が出てこない状態になってしまいます。「場面緘黙」については、本人の意思で話さないというような誤った捉え方をしてしまう危険性があります。このような観点に立つと、話せない子に対して無理に話をさせようと焦ってしまうことは、不安や緊張を高めてしまいます。原因については、まあ一致した見解はないようですが、不安から生じる防衛機制、退避的行動であるとの見解は共通に得られています。緘黙児は周囲の人の態度に、他の子以上に敏感です。

「緘黙児への対応」

話すことを強要することは禁物です。子供たちが変容し、十分に適応していくためには時間がかかります。聞こえと言葉の教室では、心理療法を参考に不安の軽減や行動の積極さを引き出す働きかけを行っていますが、緘黙の治療的指導は“緘黙をおこしている場”で行うことが大切と言われています。そこで、在籍学級では次のような点をご配慮いただければと思います。

○子どもに話かけましょう。

- ・先生が自分に関心をもってくれていることがうれしいようです。子どもが話さないことを少しも気にしない様子で、答えや反応を求めずさりとした接し方をしてください。子どもができることを見いだし、さりげなくほめましょう。先生が自分の味方だと感じることで、心のつながりを作ります。
- ・緊張が高まるので、目を見つめません。子どもの安心感を確かめながら少しずつアイコンタクトを増やしていきます。
- ・指示は、具体的なものを見せながら話すなど、視覚的な手がかりを示すようにしましょう。曖昧な言葉は子どもを不安にします。

○不安を減らし、自信を育てましょう。

- ・仲の良い子や気の合いそうな子を横座席にして、安心できるグループの活動の機会を多く用意しましょう。友だちとの交流へのサポートが必要です。
- ・大きな行事や予定は前もって知らせ、どのように取り組みたいか保護者を通して話し合ひましょう。
- ・学習面やスポーツ、芸術面で得意なことを認めて活躍できる場を設けてあげましょう。学級の係は何か任せます。自己評価が高まるようにしましょう。

○学級での理解を促進させましょう。

- ・学級全体に話す場合、『人はそれぞれ異なること』『友だちを理解する』『してはいけないことと望ましい態度』を中心に話します。発達段階などによって話し方は異なってきますが、どう話すかは保護者と相談しましょう。

②「自信がない子、受け身の子」

話したくても何をどう話せばよいか分からない、どうすればよいか分からずに動けない子がいます。その中には、記憶を保持したり言葉を想起したりする力が弱いために言語表出が不得意で困って黙ってしまう児童もいます。また、自分でやりたいことが決められない児童もいます。このような意思表示や表現が不得意な子は、話せないわけではありませんが、不安緊張が高い場合が多いそうです。ですから、どう表現すればよいかを学習したり、やることのイメージがもてるよう工夫したりして成功体験を積み重ねる中で、「できる」「大丈夫だった」という自信がもてると、不安が軽減し言動に少しずつ変容がみられます。

きこえとことばの教室では、児童の実態に合わせて次のようなことを心がけています。

- 間違えても大丈夫だという雰囲気づくり、表現できたことをほめる。結果ではなく、取り組む過程でよい言動をほめる。
- 課題の理解がしやすいように、視覚的な手がかりやモデルを示す。パターンをつかませて、言語表現できるようにしていく。
- 意思決定がでにくい児童には、選択肢を示して選ばせることから始める。
- 自分で考えて行動できたこと自体をほめ、成就感を味わわせる。
- 遊戯療法的な関わりを通して、素直な感情表現ができるようにしていく。

家庭と在籍学級ときこえとことばの教室とで、不安を和らげ認め励ましながら、できることを一つ一つ増やして自信を育てていきたいものです。



※参考資料 場面緘黙 Q&A かんもくネット著 学苑社
場面緘黙児の心理と指導 ～担任と父母の協力のため～
河井芳文・河井栄子共著 田研出版
「緘黙」への挑戦 岩手大学 山本実研究室

今年度の交流行事について

昨年度はコロナウイルス感染症予防のため、交流会は中止になりました。今年度は、12月21日（水）を予定していますが、変更になることもあるかもしれません。改めて、担当者からお知らせいたします。

日<12月～1月の主な予定> 今後の予定について

- | | | |
|------------|--------|------------------------------------|
| 12月 | 6日（火） | 研究会のため 午後指導なし |
| | 7日（水） | 小教研 午後指導なし |
| | 16日（金） | 2学期通級最終日 |
| 1月 | 10日（火） | 研究会のため 午後指導なし |
| | 11日（水） | 3学期通級開始日 |
| | 18日（水） | 入級判定委員会のため 午前指導なし
小教研のため 午後指導なし |

